

令和4年度第3回沖縄県公共事業評価監視委員会 議事概要

- 1 開催日時：令和5年2月6日（月）13時30分～16時30分
- 2 開催場所：県庁11階 第1・2会議室
- 3 出席委員：入部委員長、上地委員、木村委員、佐藤委員、宮城委員、
守田委員、屋宜委員（10名中7名出席）

4 議題

- (1) 真喜屋地区ため池等整備事業（再評価）
- (2) 県道24号線バイパス街路事業（ 〃 ）
- (3) 胡屋泡瀬線（2工区）街路事業（ 〃 ）
- (4) 豊見城中央線（4工区）街路事業（ 〃 ）
- (5) 首里城公園整備事業（ 〃 ）
- (6) 沖縄県総合運動公園整備事業（ 〃 ）
- (7) 浦添大公園整備事業（ 〃 ）

5 議事

(1) 真喜屋地区ため池等整備事業 [土地改良事業]

ア 審議結果：事業継続は妥当である

イ 主な質疑は次のとおり

- ・真喜屋ダムは当初から浚渫する計画はなかったのか。
→供用開始から100年後の計画堆砂量を21万m³に設定しており、これに達した時点で浚渫する計画である。
- ・新たな崩壊が発生してから対策するのではなく、崩壊を未然に防ぐ対策を実施することは検討できないのか。
→今後検討したい。

(2) 県道24号線バイパス街路事業 [道路事業]

ア 審議結果：事業継続は妥当である

イ 主な質疑は次のとおり

- ・基地内での現地調査を実施できていないが、今後の見込みについて聞きたい。
→返還までに用地取得が完了できるよう現地調査に着手したいが、未事業化区間に返還予定の無い土地が含まれていることを理由に、米軍側から立入許可を得られていない。立入許可と未事業化区間は切り離して検討されるよう、沖縄防衛局を通じて調整を行っているところである。
- ・事業期間が長い場合は、事業費が増大するなどの悪影響はないのか。
→事業期間が長くなると、物価の上昇等に伴い事業費が増大するという懸念があるので、早期に事業完了できるよう取り組んでいるところである。

(3) 胡屋泡瀬線（2工区）街路事業 [道路事業]

ア 審議結果：事業継続は妥当である

イ 主な質疑は次のとおり

- ・工事未着手の状況で事業費ベースの進捗率は46%となっており、未取得用地も残っているが、残事業費は足りているのか。
→残事業費約56億円のうち、工事は約39億円を予定しているので、予算は十分足りると考えている。
- ・本事業区間の混雑度は0.5とあるが、道路整備にあたり目標とする混雑度はあるのか。
→当該混雑度は将来交通量による予測値ではあるが、基本的には1以下を目標として計画する。当該区間については、並行する現道により交通が若干分散するため、低い混雑度になっていると思われる。
- ・一括交付金が減額傾向にあるなか、どのように令和9年度までに事業を完了させるのか、その見通しについて聞きたい。
→令和9年までに完了できるか厳しいところもあるが、県の街路事業では、限られた予算の中で完了間近な路線や渋滞交差点の対策に予算を優先配分するなど、短期間で事業の投資効果が出るような整備に取り組んでいるところである。

(4) 豊見城中央線(4工区)街路事業 [道路事業]

ア 審議結果：事業継続は妥当である

イ 主な質疑は次のとおり

- ・整備後の混雑度が1.12となっており、先ほどの説明にあった目標値1以下となっていないが、その要因は何か。
→当該路線は、那覇と豊見城以南を結ぶ幹線道路であり、将来交通量は35,000台/日と推計されているが、4車線以上の整備は計画していないため、混雑度としては1.12となっている。1.12というのは朝夕のピーク時に若干混雑する程度であり、未整備の場合の2.85と比較すると大きく改善している。
- ・完了予定の令和8年度には隣接する高安工区も含めて開通するのか。
→4工区の後に事業化された高安工区については、主要渋滞箇所である豊見城交差点を優先的に整備するため、その付近の用地取得を集中的に行っている状況である。

(5) 首里城公園整備事業 [公園事業]

ア 審議結果：事業継続は妥当である

イ 主な質疑は次のとおり

- ・中城御殿を復元する意義は何か。
→中城御殿の整備により首里城公園及び周辺地域の歴史的風致景観の創出を図るとともに、火災前の城郭内にあった貴重な文化財等を展示、保管する体験学習機能や歴史まちづくりの拠点機能として整備が期待されており、琉球沖縄の歴史文化の継承に寄与するものと考えている。
- ・首里城公園については、重要史跡、文化財、文化体験交流施設としての重要性が示されており、その辺をもう少し考慮に入れるような形でB/Cを算定することはできないか。
→B/Cの算定にあたっては、国においてマニュアルが示されているため、その他の評価手法については今後の課題として検討したい。

- ・今後の整備箇所について聞きたい。
→主な整備箇所としては龍潭周辺と中城御殿が残っている。
- ・維持管理費を捻出するために、県内と県外で入場料に差をつけたり、駐車場料金を無料にしたり、外国人はさらに上乗せした料金とするなど、3段階ぐらいの料金設定をしてはどうかと考えるが、見解について聞きたい。
→体育館等の施設は条例の定めにより利用料を徴収しており、駐車場等の有料化については、利用者の声も聞きながら今後検討していきたい。

(6) 沖縄県総合運動公園整備事業 [公園事業]

ア 審議結果：事業継続は妥当である

イ 主な質疑は次のとおり

- ・駐車料金を徴収することも検討したほうがよいのではないか。
→都市公園の設置目的は、公共の福祉の増進に資することから、沖縄県ではこれまで、「全ての県民が利用できる都市公園」を基本方針として管理を行っている。現在、県営都市公園の駐車場は無料となっており、有料化は利用者である県民に負担を求めることになるため、利用実態や今後の駐車場確保策等を踏まえ、慎重に検討する必要があると考えている。
- ・仮設自転車競技場の利用状況について聞きたい。
→担当課に確認すると、年間1万人程度の利用者がいると聞いている。
- ・世界的にも自転車競技で優秀な選手が出ており、近くの北中城高校にも自転車部ができて高校自体も活性化している。ただ単に駐車場が足りないから、仮設の競技場をどこかに移設するという話ではなく、現状をしっかりと分析すると議論もしやすいと考える。
- ・公園周辺における路上駐車に対して苦情は無いのか。
→イベント時には、主催者にシャトルバスの運行を依頼しているが、一部の利用者は近隣に路上駐車してしまうのが現状である。
- ・県民のために整備された公園が、コロナ以前は恐らく県外や海外の人にも多く利用されていたと思うが、受益者負担のスキームを導入することを検討できないか。
→県外や国外の利用者数は把握していないが、今後検討したい。
- ・駐車場の拡大よりも、夏場だけシャトルバスを借り上げて運用することにより、コストを抑えられるかもしれないが、検討したことはあるか。
→イベント等のシャトルバスについては主催者側の負担で実施している。仮設自転車競技場については、もともと駐車場として計画しているので、これに基づいて撤去を要望しているものである。

(7) 浦添大公園整備事業 [公園事業]

ア 審議結果：事業継続は妥当である

イ 主な質疑は次のとおり

- ・コスト削減という視点で、駐車場の増設というのは本当に必要なのか。
→土日は周辺の集落にも路上駐車が増えて苦情があるので、駐車場は必要と考えている。
- ・駐車場を整備してマイカーの利用を促進するというのは、時代の流れに逆行しているよ

うな気がするが、モノレールなど公共交通機関とのアクセスの利便性向上にコストを払うべきではないのか。駐車場の増設に関しては計画を見直してほしい。

→公園事業としては公園内の整備が基本ではあるが、今後は公共交通も含めて連携を図れるように検討していきたい。

- ・事業費の増額は15億円とあるが、内訳として記載されている事項の合計は11億円のため、残りの4億円の内訳について聞きたい。

→改修工事や増設工事に関する設計委託業務及び現場管理業務のほか、老朽化した柵等の補修を予定している。

- ・浦添市文化財事業は完了しているのか。

→現在も事業中であり、現時点では一部の城郭と石畳が整備されたのみである。

- ・駐車場計画を見直すのであれば、公園利用者の属性や移動手段等を把握した上で慎重に検討する必要がある。てだこ浦西駅のパークアンドライド駐車場を活用することも検討してはどうか。

→公園利用者は総数のみ把握しており、公共交通との連携が必要な場合は、アンケート調査の実施を検討したい。公園南口付近の浦添前田駅に隣接して、浦添市がにぎわい交流ゾーンの整備を進めており、モノレールの利用促進に繋がるものと期待している。

- ・遊具の更新とあるが、耐用年数は超えているのか。外国人観光客等の利用者の増加により壊れているのであれば、利用料を徴収することも検討すべきではないか。

→今回改修を予定している大型遊具は、平成9年頃に整備されたもので、20年以上経過し老朽化している。外国人を区別することは容易ではないと思うが、何かいい方策がないか検討したい。

- ・勝連城址や中城城址は、入場料を取って地域活性化に貢献している。税収も厳しい中、利用者が負担するというのも可能だと思うので、検討してほしい。

→県営公園では入場料を取っていないが、今後どういったもので入場料が取れるか、駐車場等の施設も含めて検討したい。

- ・母親が小さな子供を連れて公共交通を利用することは容易ではないので、利用者の実態を十分に把握した上で慎重に検討してほしい。

→利用者からは駐車場拡大のニーズが大きい。モノレールとの連携については、混雑緩和の手段として徐々に活用できればと考えている。また、徒歩圏の利用者に対しても、住宅街等に面して小さな出入口を多数設けているので、徒歩、車、公共交通のそれぞれをうまく活用できるような整備方針にしたいと考えている。

- ・本事業の予算が国から補助されているのであれば、国民は一律にその恩恵を享受できると思われるため、入場料等について差を設けることは慎重に検討した方がよい。

6 会議の公開・非公開の別：公開

令和5年2月21日

土木建築部土木総務課